



地域住民に信頼され 安心できる総合病院へ

このたび「公立阿伎留医療センターを育てる会」が地域住民の手によって発足し、6月26日に設立総会が行われました。「育てる会」は、医師不足などが深刻化し、総合病院として患者への対応が厳しくなる中、「地域医療を守る」とする組織です。開院してから85年目を迎える歴史ある地域の病院は、住民の皆さんと連携して経営努力し、住民に信頼される病院を目指してまいります。

阿伎留医療センターを育てる会が発足

心強い組織
「育てる会」の発足



「育てる会」小机会長

地域住民の方々によって設立された「公立阿伎留医療センターを育てる会」(会長「小机敏昭氏(あきる野市医師会会長)」は、100人を超える会員が集まりました。「医療センターが地域住民にとって親しみやすく、かつ信頼される病院になるように応援する」との熱い思いで発足した心強い組織です。今後、意見交換会などが定期的に行われます。

歴史ある
公立病院

医療センターは、秋川流域3市町村(あきる野市、日の出町、檜原村)で構成する一部事務組合が運営する公立病院です。大正14年

阿伎留医療センターの診療科目など



主な診療科目 内科、消化器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、産婦人科など19科。そのほか、救急科など3科の院内標榜科があります。特長的な診療科目 緩和ケア病床16床と回復期リハビリ45床を備えています。医師の数と病床数 現在の常勤の医師は43人で、病床数は310床です。

公立病院
としての役割

医療センターは、二次救急を中心とした救急医療と高度医療、へき地(過疎地)医療の支援など、採算性から民間では実施するのが困難な医療を担っています。

地域と連携
する病院

医療センターには、病院内の案内などを手伝うボランティアの方がいますが、さらに多くの地域の方の協力を望んでいます。

また、地域に親しまれる医療センターとして、あきる野市の「健康のつどい」や「産業祭」に参加し、住民とのふれあいを大切にしています。今年、夏まつりの流し踊りに参加し、病院をPRしていきます。

7月15日号の主な記事

- 私立幼稚園の保育料の一部を補助... 2面
- 五日市百日紅祭りを開催... 3面
- 簡単料理レシピ募集... 3面
- 家庭の日親子観劇会観覧募集... 4面
- 8月の乳幼児歯科検診... 6面
- 8月の市民相談... 8面

世帯と人口

平成22年7月1日現在
世帯 32,947世帯
人口 81,775人
(前月比 16人増)
男 40,898人
女 40,877人

運営の課題

国の医療制度改革などにより、全国的に医師と看護師の不足が続いています。医療センターでも、常勤の医師が不足している診療科目があり、夜間と休日の救急診療などに十分に配慮できない状況です。このことが、病院経営の低迷の原因となっており、医療センターとして最大の課題です。

地域連携と 将来の展望

医療センターでは、今後関係機関への働きかけなどを進め、医師と看護師の確保に努めていきます。また、6月からは豊富な経験を持つ循環器科の医師

が常勤しており、患者対応の体制を整えていくこととしているところです。そして、「育てる会」が発足したことで、住民に信頼され、さらには医師や看護師も来なくなるような魅力ある病院づくりを目指します。

取り組みの一つとして、医師会との相互協力体制を密にして秋川流域における病診連携を実現させるために、「医療センター」「秋川流域医師会」「構成3市町村」で協議を進めることになりました。健康管理や病気になった場合の対応として、「近所の開業医など、かかりつけ医への受診」「かかりつけ医では対応が難しくなった場合には、医療センターなどへの紹介状を依頼」「医療センターでの治療終了後は、かかりつけ医への受診、あるいは慢性期の病院などへの転院、より高度な治療が必要な場合には大学病院などへの紹介」。このように、地域における医療機関の役割分担を図り、適切な医療の提供に取り組みしていきます。

問合せ 公立阿伎留医療センター総務課(558-0321)